

## 避難者通信 20号

皆さん お元気ですか？  
もうすぐ3. 11六周年です。

皆さん、  
たくさん苦勞されましたね。  
良く頑張りましたね。  
本当にお疲れ様でした。

女性を中心として「命を守るため」の避難行動が、日本を変える力を育てつつあります。勿論男性も同じです。  
政治的系列に従うのではなく、市民本位の新しいタイプの市民運動が生まれました。例えば毎週金曜日行動など、今も継続しています。オールXXというような課題に応じた市民中心の組織も生まれました。政策で一致する野党連合もつい最近35年ぶりに活力を取り戻しました。自分の意志を自分で決める、新しい日本を導く原動力が働くから貴重です。

スピーディーを隠し、安定ヨウ素剤の投与を「パニックを招く」と中止し、「ただちに健康被害は出ません」、「100ミリシーベルト以下は、健康被害はありません」、「100ベクレル/キログラムは安全です」等々と避難させまいとする保革勢力の大合唱の中を、皆さんは避難を毅然として決意しました。  
命を守るために自らがきっちりと結論を出し、避難に踏み切ったのです。

これはものすごい決断でした。いろいろなしがらみや経済事情や意見の不一致などがありました。生活基盤を投げうってでも命を守ることをしなければならなかった。それを自らの力でやり切った。決断の勇気に敬意を称します。命を守るための選択を自らの意志として決めたのです。

日本の夜明けを呼び覚ます本当に価値ある決断だったと思います。特に女性にとって大変な環境があったと思います。女性の社会的地位をジェンダーギャップ指数に見ると、144ヶ国中、日本は111位です。この環境の中で大変だったと思います。

残留された方々も耐え難い苦渋をなめられたと思います。国が、「出費のかさむ避難は受け容れない」で、20ミリシーベルトまでの重汚染地域内の人々の内部被曝軽減の措置もありませんでした。

代わりに「安全」大合唱と「科学的に100ミリシーベルト以下は被害が無い」。

「風評被害」すなわち放射能を語ることを社会的に禁止してしまいました。

国が行う「国の都合の良い」支配に従うことは多くの苦痛を生みます。健康被害も生活維持も自己責任とされる中で、避難の願望も「絆」で覆われ、避難した人たちとの軋轢も生まれました。

今「帰還」「復興」の掛け声の中で長期的な被曝がますます気になります。

住民同士の「ぬちどう宝」の共通理解を作り出しながら、支え合う生き方ができ、国の棄民策を排除する力を作り上げる課題が残ります。

フクシマは「知られざる核戦争（核の被害隠しのために権力が民衆に対して行う戦争（矢ヶ崎克馬命名）：欧州放射線リスク委員会によれば7千万人の犠牲者が隠蔽されている）」の戦争遂行の真ただ中です。政治権力が住民の「大地を守る」「故郷を守る」悲願を利用して、「核の被害隠し」の核戦争を強行しています。棄民そのもの。その様相は「大東亜戦争」遂行の社会そのもの。「革新」政党と呼ばれている政党すら放射能公害には目をつむり一言も言及しません、報道陣の報道統制も徹底しています。「復興」「風評被害」「食べて応援」一辺倒。まさに挙国一致です。昔の「お国の為に命を捧げます」は、今は「復興の為に犠牲はやむを得ない」。『絆』は弱音監視・退治の大切な結び。国のために働く民こそ美しいのです。

（美しい国からのメッセージが届いています）

健康被害は一切ありません(甲状腺がんの事故との関係は見つかっていません)。

予防医学的な措置などしたら巨大な財政負担を招くだけで、精神不安を招きパニックを誘うだけですからいたしません。甲状腺のスクリーニングを行ったことは失敗でした。事実を報じさえしなければ健康被害ゼロはたやすく守れます。危うく認めてしまいそうでした。屁理屈をつけるが実に大変でした。

福島県以外の場所に汚染は在りません。福島県境で必ずゼロになりますからご安心ください。福島県外での放射能被害賠償や避難など言いがかりは止めてください。精神的ストレスなのですから。

避難者は非国民。放射能を気にすれば精神的ストレスで病気になります。原爆の時に「放射線を浴びたのではないか」と精神的に被ばくを体験した人々は気の毒にも精神的ストレスで72年経った今も病気がちです。明るく生きれば絶対にそんなことはありませんでした。何しろIAEAがチェルノブイリ事故後を国際調査した時、日本を代表する科学者が団長になり「放射能起因の病は皆無だった。恐るべきは放射能を浴びたのではないかという精神的ストレス。これが病の元なのだ」と報告しているではありませんか？

放射能を未だ拡散し続けるメルトダウンの炉心。処理のめどはたっていませんが東電に任せていますので大丈夫。復興の妨げになる「石棺」なんて絶対しませんからご安心ください。「石棺」は復興に対する敵国語ですから絶対に使わせません。全て「アンダーコントロール」です。

アメリカ西海岸の海が既に汚染された情報は届いていますが、大したことはありません。世界中の海が汚れると言われても漁業者は安心して仕事してください。食べて応援の体制はばっちりです。

6年経てば何事も心配は残らない。放射能を語らず明るく生きることが身を守るのです。帰還指示に従わない非国民には経済的負担を強化せざるを得ないのです。

わが善良なる民よ、復興に全力を挙げ給え。放射能を語りさえしなければ楽しく大地が守れるのですよ！

死ぬことも自己責任とする限り放射能被害は何も記録に残らないのだから、善良なる民よ、風評被害から社会を守り、美しい国を守りたまえ。

この美しい国の核被害隠しの核戦争は、戦争の出来る美しい国民作りのために大切な服従訓練の場です。

どうか天壤無窮の美しい国を扶翼してください。原発事故という緩急が有ったのですからあなたたちの義勇は言われるままに故郷の復興に奉じればよいのです。あなたたちの願望をこれほど親切に実現しようとする「民」思いの美しい政府は他にはないでしょう。

主権在民の民は命を大切にすると人格権を持ちます。政府に立憲主義を守らせ憲法を守らせることが必要です。ダメなものはダメと言い、不安があれば本音で語り合えることが「一人一人を大切にする」社会のための原動力となります。

沖縄県が避難継続者全戸対象に支援の予算案をつくりました。

ニライカナイカード保持者の方には沖縄独自の支援としてカードの代わりにお買い物券を支援いたします。

さらに沖縄協同病院での医療費無料化を実施し続けてくださいました医療生協・民医連は、理事会で医療費無料の支援を続けることを決めてくださいました。避難者健診も継続してくれます。

厳しい中でも暖かい心がうれしいですね。

3月末の住宅支援の基本的打ち切りを前に住居を変えなくてはならない方もおり、制度変わりの不当なとぼちりを受けています。  
大変ですが、頑張ってやらなければならないことはやり抜きましょう。

3月11日（土）17：30から 牧志駅前ほしぞら公民館で「3.11講演会」を開きます。講師は矢ヶ崎克馬。「つなごう命の会」主催です。お時間の空く方はいらっしゃってください。

これからも気張っていかなければなりませんね。頑張りましょう。  
矢ヶ崎克馬